

母なる海

『豊饒の海』にみる三島由紀夫の母恋い

三島由紀夫の遺作となった大作『豊饒の海』を
「母」という視点で切り込んだ稀有な論考。

『豊饒の海』の終結は、虚無であって虚無ではない——そう著者が
結論づけた理由とは？全三部構成、濃密な論考を繰り広げます。

●「〈破滅〉を超えたところにこそ〈海の彼方〉があり、そこにこそ〈母なる愛〉が存在するのである。〈母なる愛〉こそは、聡子を、三島文学の他の女性と異なる女性にせしめるものである。他の女性たちは〈破滅〉の向こう側には行っていないのであるから（本文より）」。

三島由紀夫の遺作となった『豊饒の海』。過去多くの研究者が本作のテーマを探求してきたが、本書は「母」という視点からのアプローチを試みた。作品の中に「母」を描かなかった三島にひかかりをもった著者の『豊饒の海』に託された新たなテーマを示唆するロジックは、重層的であり読み応え充分。

物語の最終で記される聡子の「松枝さんという方は、存じませんな」という言葉により、作品世界が瓦解したといわれる『豊饒の海』。だが、ふたり（聡子と清頭）は「現実世界とは別の次元に存在する」との視点により本書は作品世界の瓦解に与しない。

前著『母恋い』で、現代作家の村上春樹と東野圭吾作品において作家が作品を通して描く「母（母性）」に切り込んだ。その待望の続編ともいえる第二弾。専門が英文学であり、日本文学研究者とはまたひと味違った思考の枠組みをもつ著者ならではの、深奥な三島論および『豊饒の海』論である。



著者略歴

大野 雅子(おおの まさこ)

帝京大学外国語学部教授。専門は比較文学、イギリス・ルネッサンス文学。
1985年津田塾大学学芸学部英文学科卒業。1988年東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専攻修士課程修了。
1991年同博士課程退学。2003年プリンストン大学比較文学科博士号取得。
スペンサーの研究者として知られ、文学における洋の東西を問わない博学により斬新な論を発表している。
著書に『ノスタルジアとしての文学、イデオロギーとしての文化—「妖精の女王」と「源氏物語」、「ロマンス」と「物語」—』（英宝社）、『母恋い——メディアと、村上春樹・東野圭吾にみる“母性”』（PHPエディターズ・グループ）、共著にSpenser in History, History in Spenser（大阪教育図書）、『詩人の詩人 スペンサー』（九州大学出版会）、『伝統と変革 一七世紀英国の詩泉をさぐる』（中央大学出版部）などがある。

貴店印・帳合

ご注文数

母なる海

『豊饒の海』にみる三島由紀夫の母恋い

大野 雅子/著

定価：本体2,000円(税別)

ISBN978-4-910739-13-7

発売日：2022年11月16日

四六判並製/288頁

PHPエディターズ・グループ

ご担当

様

冊

発行

PHPエディターズ・グループ

〒135-0061
東京都江東区豊洲5-6-52 11階
☎ 03-6204-2931
FAX 03-6204-2932

ご注文はJRCへ▶▶▶▶ FAX 03-3294-2177

※返品条件付き注文扱い
すべての取次への出荷が可能です。